

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

「ビジネス日本語」における「社会人基礎力」を用いた取り組み：
学習者の能動的な活動参加を目指して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学留学生別科 公開日: 2025-04-11 キーワード (Ja): ビジネス日本語, 社会人基礎力, 能動的 キーワード (En): 作成者: 半田, 佳奈子 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学非常勤
URL	https://kansaigaidai.repo.nii.ac.jp/records/2000348

「ビジネス日本語」における「社会人基礎力」を用いた取り組み ー学習者の能動的な活動参加を目指してー

半田 佳奈子

要旨

筆者は自身が担当している外国人留学生対象の「ビジネス日本語」コースにおいて、学習者のより能動的なクラス活動への参加を目指し、「社会人基礎力」を活用した取り組みを行った。「社会人基礎力」とは、仕事をするために必要とされる基礎的な力と定義され、企業の新入社員採用プロセスにおいても重視されている。このような背景から「ビジネス日本語」にも「社会人基礎力」育成のための学習活動を加えるべきとの声が高まっている。

筆者は、留学生にとっては、まず、この「社会人基礎力」について知ることがクラス活動に積極的に参加することへの動機になると考えた。取り組みを行った結果、コースでは学習者の能動的な行動が見られ、また、コース修了時に行ったアンケートでは学習者がビジネスで必要とされる能力や資質を意識しながら、クラス活動に取り組んでいたことが示唆された。

【キーワード】 ビジネス日本語、社会人基礎力、能動的

1. はじめに

日本における外国人労働者数は増加しており、厚生労働省（2023）の『『外国人雇用状況』の届出状況』によると、令和5年10月時点でその数は200万人を超え、届出が義務付けられた平成19年度以降、過去最高を更新した。また、日本の高等教育機関を卒業したあと日本国内で就職した外国人留学生の数は文部科学省の資料（2023）によると、令和3年度において2万5000人余りとなっている。この数は約10年にわたり着実に増加しており、コロナ等の影響により令和2年度は減少に転じ

たものの、翌令和 3 年度にはピーク時の水準を超えるまでに回復している。また、文部科学省の同資料によると、令和 3 年度に日本で就職した留学生の割合は、日本の高等教育機関を卒業・修了した留学生全体の 46.5%であったが、政府はこの割合を 2025 年度末までに 50%まで伸ばすことを目指している。このような背景の中、大学におけるビジネス日本語教育はその重要性を増していると言えよう。

留学生対象の「ビジネス日本語」⁽¹⁾で扱われている学習内容は職場で使う日本語や就職活動のための日本語といったビジネス場面で必要とされる日本語が主流であるが、昨今では「ビジネス日本語」の枠組みに「社会人基礎力」の育成のための学習活動を取り入れる必要性が示されている(堀井 2020; 鹿目ほか 2021)。「社会人基礎力」は、経済産業省によると、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」と定義され、日本の企業の新入社員採用プロセスにおいても、学生の「社会人基礎力」は重視されている(経済産業省 2006)。

筆者は 2018 年より関西外国語大学(以後、KGU)において、留学生を対象とする「ビジネス日本語」を担当している。KGU の留学生の大部分は交換留学生であるため、留学終了後、すぐに日本で就職することはないが、将来、日本関連の仕事を希望する学生は多く、「ビジネス日本語」の履修者も学期ごとの増減はあるが、徐々に増加している。

本稿では、当該コースにおいてコース参加者の、より能動的なクラス活動への参加を目指して行った「社会人基礎力」を用いた取り組みについて述べる。まずは、先行研究に基づき、「社会人基礎力」が大学教育、企業、そして、留学生対象の「ビジネス日本語」において、どのような位置づけにあるかを見る。その後、KGU の「ビジネス日本語」コースの取り組みについて述べる。

2. 「社会人基礎力」とは

「社会人基礎力」とは、経済産業省によって 2006 年に提唱され、図 1 に示すように「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力と 12 の能力要素から構成されている。「社会人基礎力」は「人生 100 年時代」において、その重要性を増しており、「これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力」として、平成 29 年に「人生 100 年時代の社会人基礎力」⁽²⁾と新たに定義されている。

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(= 3つの能力・12の能力要素)」として定義。

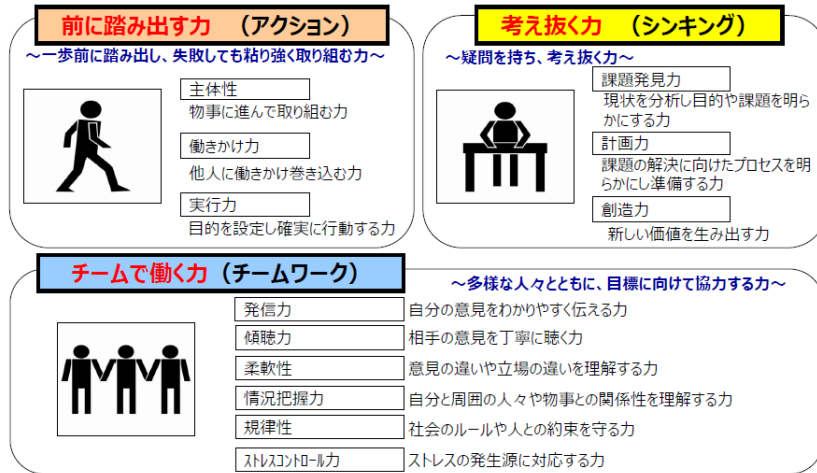


図1 社会人基礎力

また、経済産業省は、その能力を発揮するにあたって「自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要」と説明している(図2参照)(経済産業省b)。現在、多くの日本の高等教育機関の授業やゼミにおいて、「社会人基礎力」を育成するための取り組みがあり⁽³⁾、また、育成授業の効果測定などの関連研究も多く行われている(井芹・河村2016)。

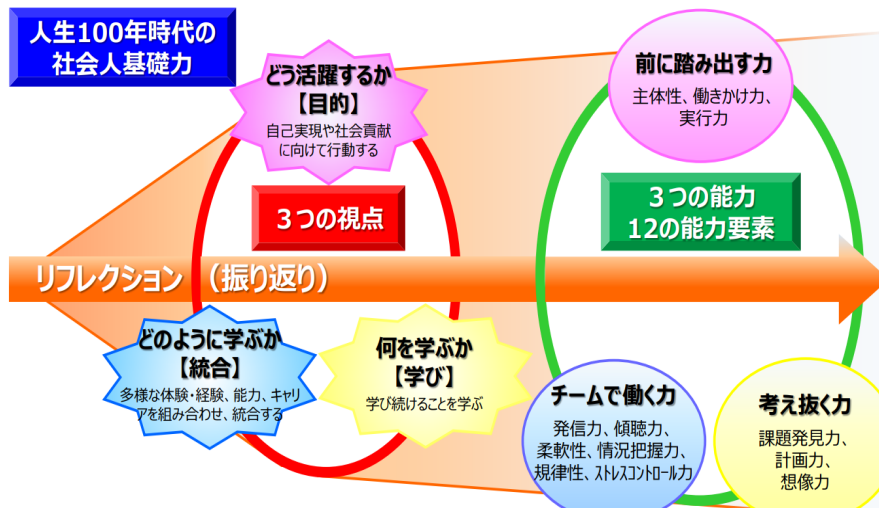


図2 人生100年時代の社会人基礎力

日本の企業においても「社会人基礎力」は新入社員を採用する際の指標として活用されていることから、大学生にとって、「社会人基礎力」についての知識を得、その向上のための取り組みを行うことは重要である。また、現在、留学生は日本人大学生と同じプロセスで就職活動に参加しているため、日本での就職を目指す留学生にとっても「社会人基礎力」について知ることは必要不可欠であろう。ここで企業が留学生に求める資質（表1 Disco 2020）を見てみると、「コミュニケーション能力」「協調性」「バイタリティー」といった資質が上位にあり、これらは「社会人基礎力」の「前に踏み出す力」「チームで働く力」と重なっていると言える。では、留学生対象の「ビジネス日本語」においては「社会人基礎力」に関する学習はどのように扱われているのだろうか。

表1 外国人留学生に求める資質

文系			(%)	理系			(%)
1	日本語力		53.4	1	日本語力		49.6
2	コミュニケーション能力		52.5	2	コミュニケーション能力		40.5
3	協調性		30.5	3	専門知識		38.8
4	基礎学力		23.7	4	協調性		26.4
5	バイタリティー		19.5	5	基礎学力		23.1
6	異文化対応力		17.8	6	熱意		16.5
7	熱意		16.1	7	異文化対応力		15.7
8	社交性		11.9	8	バイタリティー		14.0

（出典：Disco「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する調査」2020）

3. 「ビジネス日本語」と「社会人基礎力」

まずは「ビジネス日本語」の学習内容について、先行研究に基づき整理する。滝内（2017）は、複数の大学⁽⁴⁾の2017年度の「ビジネス日本語」のシラバスを閲覧し、その学習内容を調査することによって、「ビジネス日本語」の定義と領域の考察を試みている。この調査では授業内容を面接、自己紹介、エントリーシートといった「就職活動型」と入社後のビジネス場面で使用される口頭表現、メール、ビジネスマナーといった「入社後型」、そして、どちらとも判断されない「その他」の3つのグル

ープに分けて考察しているが、これによると、「入社後型」がより重要視されているという。「就職活動型」も調査した大学の半数以上で取り入れられているが、授業時間における活動の割合が「入社後型」より少ない。同様に鹿目ほか（2021）、および、ビジネス日本語教育の変遷について論じた寅丸ほか（2017）も、「ビジネス日本語」ではビジネス場面における日本語の運用能力やビジネスマナーといったビジネス常識に関わる学習内容に焦点が当てられているとしているが、その一方で、寅丸ほか（2017）は近年、学習した知識を有効に活用していくための「社会人基礎力」が求められるようになってきたと述べている。また、堀井（2020）は、フルタイムの仕事経験が少ない留学生が日本語を使って経済的自立をし、社会貢献を目指すために、ビジネス日本語教育の中で就職活動、ビジネスマナーと並び、「社会人基礎力」も扱う必要があるとし、鹿目ほか（2021）もビジネス日本語教育において「社会人基礎力」を育成すべきという立場に立ち、それを目的とした新しいビジネス日本語教科書の開発を提案している。以上のように、近年、大学教育や日本の企業において「社会人基礎力」が重視される中、「ビジネス日本語」の学習内容もこの流れに応じて変化してきていることがわかる。

ここまでの議論に基づき私見を述べると、「ビジネス日本語」において、まず重視されるべきは業務を遂行するための日本語運用力の育成であると考ええる。しかし、業務を遂行するためには道具である「ことば」だけではできればよいということではなく、仕事場という社会で適切にふるまうこと、つまり、社会人としての素養が必要となる。現実問題として、まず、希望する仕事に就くために、また、仕事を始めてからも希望するキャリアパスを築くために「社会人基礎力」は必要である。しかし、留学生の中には日本のビジネス社会において求められている能力や資質についてのイメージをはっきりと持っていないものもあり、留学生にとっては、まずそれらについての情報を得ることが大事である。そして、それらを知ることが「ビジネス日本語」のクラス活動に能動的に取り組むための動機にもなると考える。ここでの「能動的」とは「自ら進んで、他に働きかけつつ、行動する姿勢」としたい。これは「社会人基礎力」に含まれている要素である。以上のことを鑑み、筆者は自身が KGU で担当する「ビジネス日本語」において、「社会人基礎力」を活用した取り組みを 2024 年秋学期に行った。以下、それについて述べる。

4. KGU での「ビジネス日本語」

4.1 学習環境・コース目標・学習項目

まずは筆者が KGU で担当する「ビジネス日本語」コースについて説明する。当該コースは選択コースであり、90 分の授業が週 2 回実施され、1 学期間に 30 回の授業がある。対象者は日本語中級レベル以上で、参加者の日本語レベルは中級から上級と幅があり、学習内容を考える際には、まず、このレベル差を考慮している。当該コースの参加者は大部分が学部生の交換留学生であることから、日本で仕事をした経験がある人はほとんどおらず、自国においてもフルタイムでの就労経験があるものは少ない。留学後は一度本国に帰国するため、留学終了後、すぐに日本で就職することはないが、大部分の参加者が将来、日本に関連する仕事に就くことを希望している。

以上のような学習環境の中で、筆者は当該コースの第一の目標を参加者にビジネスで使われている日本語とはどのようなものかを実践を通して知ってもらうこととし、その中で日本語運用能力の向上を目指している。主な学習項目は以下の 4 点である。

1. ビジネス場面でのスピーチレベルを意識したペアワークでの口頭コミュニケーション
2. 基本的なビジネスメール
3. ビジネスマナー
4. 就職活動関連（就職活動についての学習、エントリーシートの執筆、面接のシミュレーション）

4.2 「社会人基礎力」を活用した取り組み

2024 年秋学期の「ビジネス日本語」には日本語レベル 5～8 の 14 名の学習者が参加した。これまで当該コースでは、「社会人基礎力」に相当するビジネスにおいて求められる資質や能力について、参加者に対して十分に意識付けができていなかった。そこで、「社会人基礎力」を活用した取り組みを行うことで、学習者がビジネス場面で使われている言葉のみに注目するのではなく、実際のビジネスという社会活動においてどのように行動すべきなのか、ということを意識しながらコース活動に参加することを期待した。以下に取り組みの具体的な内容を示す。

1. 学期最初のオリエンテーションで「社会人基礎力」の「チームで働く力(teamwork)」
「考え抜く力(thinking)」 「前に踏み出す力(action)」の基本の3つの力をビジネス
で重視される要素として紹介し、クラス活動を積極的に行うことの重要性を上
の3つの能力と関連付けて伝えた。
2. 口頭コミュニケーション練習のペアワークにおいて、1 で述べた点を実行でき
るような働きかけを行った。24 年秋学期以前は、学習者がペアワークをできる
だけ色々な人と行えるよう、教師がペアを決めることも多かった。しかし、今
回は学習者が自らクラスメートに声をかけ、ペアワークを始める際に「よろし
くお願いします」と挨拶をしてから始めるということにした。その際、オリエ
ンテーションで示した上記1の内容を改めて示すとともに、自ら進んで行動す
ることの大切さを伝え、できるだけ色々な人と練習するよう、アドバイスした。
3. 就職活動関連の学習の中で、日本の企業で重視される点についてデータを示し、
それらについて話し合った。また、チェックシート⁽⁵⁾を使用して、自身の「社会
人基礎力」をチェックし、強みや不足している点について考える機会を設けた。

4.3 「社会人基礎力」に関する取り組みを振り返って

本取り組みについて振り返る。まずは筆者の授業観察を通しての感想を述べる。
ペアワークでは能動的な行動が多く見られた。たとえば、ペアワークでやるべき課
題が早く終わった場合、自主的にできる練習を考えて進める、ペアワークのパート
ナーを探す際に立ち上がって行動を起こす、などである。コースには他者に声をかけ
ることが苦手な学習者も一定数いたと思われるが、積極的な学習者が進んで行動
を起こすことで全体が活性化され、消極的な学生も参加しやすくなった可能性があ
る。

また、面接シミュレーションでは、自己PRをする際に「協調性がある」「人と関
わるのが好き」「最後まであきらめない」といった点を強調する学習者が多かった。
これには、「日本の企業で重視される点」について話し合ったことや、それとともに、
面接で何をアピールすべきかをクラスで確認したことの影響があったと考える。

次に、学期末に行ったアンケートの結果に基づき考察する。アンケートは Google
Form を用いて作成し、ペア/グループワークについてコース参加者がどう感じてい
たのかを聞いた。本アンケートには 14 名中 11 名が参加した。まず、「あなたは『ビ

ビジネス日本語』のクラスでペア/グループワークに積極的に参加したか」という質問には 64%が「参加した」と答え、残りの 36%が「ほとんどの場合、参加した」と答えた。これは筆者の授業観察を通しての印象と一致するものであった。また、その理由として、45%の人が「ビジネスで人と積極的に関わることは重要だから」を選び、次いで 36%が「自分はいつもクラス活動に積極的に参加しているから」を選んでいる。また、「積極的なクラス活動への参加は自身のキャリア形成のために良い練習となるか」という質問には 82%が「そう思う」、そして、残りの 18%が「大体そう思う」と答えている。この結果からは学習者がビジネスにおいて求められる資質や能力、または、ビジネスにおいてどう行動すべきかを意識しながらコース活動に参加していたことが見て取れる。

5. まとめと今後の課題

「社会人基礎力」に関する本取り組みは、「ビジネス日本語」のクラス活動の目的をより現実的に捉えられる形にし、それにより、学習者が能動的に活動に参加することを期待し、行ったものである。このような取り組みによって、「ビジネス日本語」がビジネスの場で使うことばやビジネスマナーを学習する場にとどまらず、クラスでのやり取りを通してビジネスという社会活動のシミュレーションを行う場になればと思っている。今後も毎学期のコースの特性に応じて取り組み方法を工夫しつつ、続行していきたい。

注

- (1) 本稿では、コースとしての「ビジネス日本語」には鍵かっこを付け、ビジネスで使われる日本語を意味するビジネス日本語には鍵かっこを付けていない。
- (2) 本稿では「人生 100 年時代の社会人基礎力」を便宜上、「社会人基礎力」と記す。
- (3) 「社会人基礎力評議会」のホームページによると、「社会人基礎力」育成事業の一環として、毎年「人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ」が開催されており、多くの高等教育機関が授業やゼミ単位での取り組みを発表している。
- (4) 滝内（2017）では JASSO の 2017 年の調査において「留学生が多い機関」として挙げられている 31 校を調査対象としている。
- (5) チェックシートとして、経済産業省が学生のインターンシップ用に作成した「インターンシップ：社会人基礎力自己点検シート」（経済産業省 a）の一部を引用し、筆者がそれ

に英語訳を入れたものを使用した。

参考文献

- 井芹まい, 河村茂雄 (2016) 「大学生の社会人基礎力の獲得タイプと自我同一性との関連」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要：別冊』23, 2, 61-71.
- 経済産業省 (2006) 「『社会人基礎力に関する緊急調査』の結果について：社会人基礎力に関する緊急調査結果のポイント」
<https://warp.da.ndl.go.jp/collections/info:ndljp/pid/1052065/www.meti.go.jp/press/20060418005/shakaijin,kisoryoku-point-set.pdf> (2024 年 12 月 31 日)
- 経済産業省 a 「インターンシップ促進：社会人基礎力自己点検シート」
<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/intern/intern.html> (2024 年 12 月 18 日)
- 経済産業省 b 「社会人基礎力」<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>
(2024 年 12 月 18 日)
- 厚生労働省 (2023) 「『外国人雇用状況』の届出状況【概要版】(令和 5 年 10 月末時点)」<https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/001195785.pdf> (2024 年 12 月 18 日)
- 鹿目葉子, 榎原実香, 大橋真由美 (2021) 「新時代に向けたビジネス日本語教科書の提案—大学における社会人基礎力の育成を目指して—」『BJ ジャーナル』4, 2-15.
- 社会人基礎力評議会 「人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ」
<https://biz100.org/gp> (2024 年 12 月 18 日)
- 滝内ひろ子 (2017) 「大学教育における『ビジネス日本語』教育」『神戸医療福祉大学紀要』18 (1), 19-29.
- 寅丸真澄, 饗場淳子, 作田奈苗 (2017) 「ビジネス日本語教材にみるビジネス日本語教育観の変遷—教材のパイロットスタディの調査結果から—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』43, 109-120.
- 堀井恵子 (2020) 「留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育に求められるものは何か」『武蔵野大学文学部紀要』9, 1-9.
- 文部科学省 (2023) 「外国人留学生の就職促進について」
https://www.jasso.go.jp/gakusei/career/event/guidance/__icsFiles/afieldfile/2023/06/06/1mnka_ryuugaku.pdf (2024 年 12 月 18 日)
- Disko. (2020). 「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する調査」

<https://www.career-tasu.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/01/2020kigyuu-global-report.pdf> (2024 年 12 月 18 日)

(han_kana@yahoo.co.jp)